

2021年8月6日

## 2022年3月期 第1四半期連結決算電話会議 内容説明スクリプト

### I. 全体の概要説明

それでは、本日発表いたしました当社2022年3月期第1四半期連結決算の概要についてご説明します。決算短信の表紙サマリーをご覧ください。

#### 1. 2022年3月期第1四半期連結決算 業績概要

##### 1) 当年度第1四半期連結経営成績

当年度第1四半期の連結経営成績は、前年同期比で増収、増益となりました。

- ① 売上高 2,943億円 前年同期比1,035億円の増収  
(売上総利益 556億円 前年同期比369億円の増益)
- ② 税引前利益 599億円 前年同期比564億円の増益
- ③ 親会社の所有者に帰属する四半期利益431億円 前年同期比429億円の増益  
となりました。

##### 2) 全般概況

ここからは、当年度第1四半期連結決算の全般概況をご説明いたします。決算短信の表紙サマリーまたは決算補足説明資料のP1上段をご覧ください。

#### [第1四半期連結決算 業績概況 前年同期比較]

##### ① 当年度第1四半期の金属価格の状況

銅およびニッケル価格については、世界経済が回復しつつあることなどを背景に上昇基調で推移しました。金価格は新型コロナウイルス感染症の変異株拡大により景気回復に懸念が生じたことなどから上昇基調で推移したものの、米国における利上げ時期の前倒しが意識されたことで一時的に下落しました。この結果、当期の銅およびニッケル価格並びに金価格は、いずれも前年同期間を上回りました。

##### ② 当年度第1四半期の連結税引前利益の状況

当期の連結税引前利益は、前述の金属価格上昇により、前年同期に対して相場要因で534億円好転しました。加えて、海外銅鉱山を中心としたコスト差+20億円、材料事業の増益+73億円、為替差損益+13億円などにより、海外銅鉱山の税金費用の増加(持分法損益の縮小要素)▲97億円等はありませんでしたが、全体として、当期の連結税引前利益は前年同期比564億円増益の599億円となりました。

### 3) トピックス

続きまして、当年度第1四半期連結決算におけるトピックスについて概況をご説明します。

#### ① 海外銅鉱山

新型コロナウイルスの感染症拡大の影響を踏まえた年間計画に基づき、概ね順調に操業を継続しました。当期の各鉱山の損益は銅価格上昇の影響を主要因として、前年同期比で大きな増益となりました。

#### モレンシー

新型コロナウイルスの感染症拡大の影響を踏まえて一部設備の停止等の操業度低下策を継続していることから、当年度の生産量は、前年同期比で12千トン減少の97千トンとなりました。

#### シエラゴルダ

安定操業の継続により鉱石処理量が増加したことに加え、銅品位が上昇したこと等により、当期の生産量は前年同期比8千トン増加の42千トンとなりました。

#### セロ・ベルデ

当期の生産量は、新型コロナウイルス感染症拡大への対応で一時保安操業措置を実施した前年同期に対して6千トン増加の98千トンとなりました。

#### ② タガニート HPAL

新型コロナウイルスの感染症拡大による影響は軽微であるものの、設備トラブルなどにより、当期の生産量は前年同期比0.9千トン減少の6.1千トンとなりました。

#### ③ CBNC (コーラルベイ)

新型コロナウイルスの感染症拡大による影響は軽微であり、概ね順調に操業を行いましたが、計画休転の実施時期の違いなどにより、当期の生産量は前年同期比0.5千トン減少の4.8千トンとなりました。

#### ④ 材料事業

当期の売上高は、前年同期比171億円増販の655億円となりました。

材料事業のセグメント損益は、粉体材料において好調な販売を維持したことに加え、電池材料等において一時的に需要が低迷した前年同期と比較し販売量が増加したことなどにより、前年同期比73億円増益の67億円となりました。

## 2. 2021 年度第 2 四半期累計 連結業績予想

### 1) 第 2 四半期累計連結業績予想の概要

今回は、第 2 四半期累計の連結業績予想のみ見直しを行い、年度の業績予想見直しは行っておりません。決算短信の表紙サマリーまたは決算補足説明資料の P1 下段をご覧ください。

第 2 四半期累計連結業績予想は、

- ①売上高 5,660 億円、5 月予想比 440 億円の増収  
 (売上総利益 990 億円、5 月予想比 220 億円の増益)
- ②税引前利益 1,060 億円、5 月予想比 330 億円の増益
- ③親会社の所有者に帰属する四半期利益 780 億円、5 月予想比 220 億円の増益

と、5 月の予想値に対して増収・増益と予想しています。

業績予想の前提となる第 2 四半期の金属価格および為替は、決算短信 添付資料 5 ページならびに決算補足説明資料の P1 下段に記載のとおり、銅 \$9,000/t、金 \$1,750/toz、ニッケル \$7.5/lb、コバルト\$18.0/lb、為替は 110 円/\$ としております。第 1 四半期実績と合わせた第 2 四半期累計では、銅 \$9,356/t、金 \$1,783/toz、ニッケル \$7.69/lb、コバルト\$19.34/lb となり、5 月予想よりも上昇、為替は 109.75 円/\$ と 5 月予想よりも 2.75 円の円安で見えております。

第 2 四半期累計予想の連結税引前利益は、5 月予想に対して、相場要因での好転+437 億円や、材料事業の増益+60 億円を見込む一方、カンデラリア鉱山における減産やタガニート HPAL の設備トラブルに伴う減産等による数量差▲12 億円やコスト差▲53 億円、海外銅鉱山の税金費用の増加(持分法損益の縮小要素)▲62 億円の他、未実現利益の影響などのマイナス要素により、全体としては、5 月予想に対して 330 億円の増益となる、1,060 億円と予想しています。

### 2) トピックス

ここからは、第 2 四半期累計連結業績予想におけるトピックスについて概況をご説明します。

#### ① 海外銅鉱山

##### モレンシー

引き続き、新型コロナウイルスの感染症拡大の影響を踏まえた一部設備の停止等の操業度低下策を継続し、第 2 四半期の生産量は、第 1 四半期並みの 99 千トンとなります。第 2 四半期累計の生産量は 196 千トンと、5 月公表年間計画 368 千トンに対して 53%の進捗となります。

##### シエラゴルダ

安定操業の継続と鉱石品位の上昇により、第 2 四半期累計の生産量は過去最高の 93 千トンと、5 月公表年間計画 180 千トンに対して 52%の進捗となります。

##### セロ・ベルデ

新型コロナウイルスの感染症拡大による影響を踏まえた年間計画に基づき、順調に操業を継続しております。第 2 四半期累計の生産量は 193 千トンとなります。

##### カンデラリア

第 2 四半期累計の生産量は 54 千トンと、5 月公表年間計画 148 千トンに対して 36%程度の

進捗にとどまっています。なお、パートナーのLundin Mining社は、露天掘り採掘箇所が存在する断層によるピット崩落の予防措置のために採掘が遅延しているとして、6月に年間生産量ガイダンスの下方修正を発表しており、これに対する第2四半期累計の進捗率は約45%となります。

② タガニート HPAL

第1四半期に発生した設備トラブルによる減産により、第2四半期累計の生産量は12.7千トンと、5月公表年間計画33.0千トンに対して4割程度の進捗となる見込みです。

③ CBNC（コーラルベイ）

第2四半期累計の生産量は10.0千トンと、5月公表年間計画20.0千トンに対して50%の進捗となる見込みです。

### 3. 配当

配当についてご説明いたします。

今回、年間の業績予想を見直していないことから、当期の配当予想を見直しておりません。決算短信サマリー表紙下段には、5月に公表した配当予想である、中間71円、期末62円、合計133円を記載しております。

## II. 売上総利益、セグメント利益の内訳他の詳細

それでは、2021年3月期第1四半期決算「補足説明資料」をご覧ください。

### 1. 1 ページ目「決算・予想比較」について

#### 1) 2021年度第1四半期決算 vs 2020年度第1四半期決算

当年度第1四半期累計決算の前年同期比較につきまして、上段の表をご覧ください。

当年度第1四半期の売上高は2,943億円と前年同期比1,035億円の増収となりました。前年度決算の際に説明しましたとおり、電池材料の前年度第1四半期の売上高について、会計方針の変更が遡及適用されています。

税引前利益については、599億円と前年度比+564億円の増益となりました。

その増減分析は、表の脚注に記載の通り、相場要因による影響が+534億円で、このうち、価格・条件差が+489億円、銅で+399億円と大部分を占めています。在庫評価は前年同期比で+55億円となりました。

数量差▲8億円については、モレンシー、カンデラリアなどで前年同期比減販となったことなどが主な要因です。コスト差については、順調な操業・生産を継続し前年同期比増産となったシエラゴルドの他、電気銅、モレンシーなどで単位当たりコストの好転があったことから+20億円の好転となりました。一過性要因では、前年同期に計上したQB2プロジェクトの建設中断コストがないことによる+6億円の好転がありました。

材料事業ならびにその他の増減要因につきましては、前半部分でご説明のとおりです。

## 2) 2021 年度第 2 四半期累計予想 (8 月) vs 2021 年度第 2 四半期累計予想 (5 月)

続いて、今回見直しを行った 2021 年度第 2 四半期累計の業績予想と 5 月公表値との差異につきまして、1 ページ目下段の表をご覧ください。

2021 年度第 2 四半期累計の業績予想は、売上高は 440 億円増収の 5,660 億円、税引前利益は 330 億円増益の 1,060 億円と予想しています。

その増減分析は、表の脚注に記載の通り、相場要因による影響が+437 億円で、このうち、価格・条件差で+313 億円、こちらも銅の+255 億円が大部分を占めています。そのほか、在庫評価は+106 億円の好転を見込んでいます。

数量差は▲12 億円の悪化と予想しています。菱刈鉱山で 5 月予想時の計画に対して増販を見込む一方で、THPAL、電気ニッケル、カンデラリアなどで減販を見込んでいることなどが主な要因です。コスト差については▲53 億円の悪化を見込んでいます。THPAL の設備トラブル起因の減産影響、カンデラリアの生産計画見直しによる減産影響などが主な要因です。

材料事業は、粉体材料等の市場環境が好調であり 5 月公表時を上回る販売を見込むことや、電池材料の建値差好転などにより、+60 億円の増益と予想しています。

その他の増減要因につきましては、前半部分でご説明のとおりです。

### 2. 3 ページ セグメント別対前年同期実績比較 (売上総利益増減)

それでは、3 ページをご覧ください。セグメント別の前年同期比較です。

まず、左上の表の資源セグメントの売上総利益は 228 億円と+131 億円の増益となりました。

同じページの中段以下に売上総利益の増減説明を記載しています。菱刈鉱山は、+11 億円の好転となりました。金価格上昇による価格差で+9 億円の好転となったことが主な要因です。

海外銅鉱山は、+124 億円の好転となりました。大半がモレンシーです。銅価格の上昇による価格差好転+110 億円に加え、コスト単価差の好転+18 億円などにより、前年同期比で大幅な好転となりました。

次に、製錬セグメントの売上総利益は 250 億円と+166 億円の増益となりました。

その内訳は下段の表の通りです。

銅系は+81 億円好転となりました。為替が円安になったこともあり、在庫評価+37 億円が大きくなっています。その他+17 億円のうち為替による影響は▲2 億円となっています。

ニッケル系は+87 億円好転となりました。条件差で+80 億円、在庫評価で+20 億円となった一方で、コスト単価差は CBNG、THPAL が前年同期比減産となったことにより▲19 億円となりました。その他+3 億円のうち為替の影響は僅かでした。

なお、3 ページ右上 セグメント損益の表に注記のとおり、今年度より報告セグメントに帰属しない費用の配賦方法を変更しており、2020 年度に遡及して反映させています。

### 3. 4 ページ セグメント別対前年同期実績比較 (材料事業の製品群別売上高)

それでは、4 ページ上段、材料事業の製品群別売上高について説明します。

材料事業全体の売上高は、655 億円となり前年同期比で+171 億円の好転となりました。

電池材料の売上高は、一時的な需要減の影響を受けた前年同期に対し+88 億円増収の 307 億円となりました。粉体材料は、旺盛な需要を背景とした増販により+46 億円増収の 126 億円となりました。パッケージ材料は 13 億円増収の 52 億円、結晶その他の事業は、+24 億円増収の 169 億

円となりました。

なお、先ほど申し上げたとおり、有償支給品に係る会計方針の変更が、前年度第1四半期の電池材料の売上高に遡及適用されています。

3ページの材料セグメントの売上総利益は、前年同期比+67億円の増益となる103億円、セグメント損益は前年同期比+73億円の増益となる67億円となりました。

#### 4. 4ページ セグメント別対前年同期実績比較（持分法投資損益）

次に、4ページ下の表、持分法投資損益について説明します。

持分法投資損益全体では、前年同期比+140億円増益の104億円となりました。増益の主な要因は銅系で、+145億円増益の101億円となりました。

銅系のうち、セロ・ベルデは、保安操業を実施した前年同期に対し増産・増販となったことや銅価格上昇により前年同期比+60億円増益の51億円となりました。カンデラリアとオホスは、カンデラリアが前年同期比減産・減販となりましたが、銅価格上昇などにより+6億円増益の8億円となりました。シエラゴルダは、操業の改善・安定化や給鉱品位の上昇により前年同期比増産・増販となったことや銅価格上昇により+63億円増益の29億円となりました。

アシッツ他は、+16億円増益の13億円となりました。

#### 5. 4ページ 金融収益・費用、その他の収益・費用の主たる増減

上述の為替の影響額の外に特殊な要因等はないため、説明は割愛します。

#### 6. 5ページ セグメント別第2四半期累計予想比較

##### 2021年度第2四半期累計予想（8月）vs（5月）

それでは5ページをご覧ください。

2021年度第2四半期累計の業績予想を5月公表値と比較したものです。業績予想の数値は10億円単位の丸め数字で記載しています。

まず、一番上の表の売上総利益について、年度①および増減①-②を中心にご覧ください。

資源セグメントの売上総利益は440億円と5月予想比+100億円の増益となる予想です。

同じページの中段以下に売上総利益の増減説明を記載しております。

菱刈鉱山は、第2四半期累計として400kgの増販となる計画で、これにより数量差+20億円の好転となります。また、価格差で+12億円好転するなど、5月予想比+40億円の増益となる予想です。

海外銅鉱山は、+60億円の増益と予想しています。前述の通り大半がモレンシーで、銅価格の上昇による価格差で+53億円好転、また、コスト単価差で+7億円の好転を見込むことが主な要因です。

次に、製錬セグメントの売上総利益については、410億円と5月予想比+130億円の増益となる予想です。

その内訳は、下段の表の通り、銅系で+133億円、ニッケル系で+11億円の増益と予想しています。銅系では、在庫評価で+87億円好転すると見ている他、条件差で+11億円、その他で+28億円の好転を見込んでいます。

ニッケル系では、条件差で+44億円、在庫評価で+21億円の好転を見込む一方で、THPAL、電気ニッケルで減産・減販を見込むことなどにより数量差で▲30億円、コスト単価差で▲33億円悪化

すると見えています。

なお、銅系のその他+28億円のうち為替の影響は僅かと見えています。また、ニッケル系のその他9億円のうち、為替の影響は+5億円と予想しています。

#### 7. 6 ページ セグメント別第2四半期累計予想比較（材料事業の製品群別売上高）

それでは、6 ページ上段、材料事業の製品群別売上高について説明します。

材料事業全体の売上高は、1,320 億円で5月予想比+70 億円の増収と予想しています。

電池材料は、堅調な生産・販売を継続していることに加え、金属価格上昇の影響などにより5月予想比+30 億円増収の610 億円と予想しています。粉体材料は、増販により5月予想比+20 億円増収の250 億円と予想しています。パッケージ材料は10 億円増収の100 億円、結晶その他の事業は+10 億円増収の360 億円と予想しています。

5 ページの材料セグメントの売上総利益は、5月予想比+40 億円増益の190 億円、セグメント損益は+60 億円増益の120 億円と予想しています。

#### 8. 6 ページ セグメント別第2四半期累計予想比較（持分法投資損益）

下段の持分法投資損益について説明します。ここでは、5 億円刻みの丸数として表示しています。

持分法投資損益全体としては、5月予想比で+75 億円増益となる270 億円と予想しています。

増益の主な要因は銅系で、+75 億円増益の255 億円と予想しています。銅系のうち海外銅鉱山では、銅価格上昇に伴う価格差好転などによりセロ・ベルデでは+40 億円、シエラゴルダでは+15 億円の増益と予想していますが、カンデラリアについては減産によるマイナス影響があり▲5 億円の減益と予想しています。

#### 9. 6 ページ 金融収益・費用、その他の収益・費用の主たる増減

第1四半期実績と同様に、為替の影響額の他に特殊な要因等はないため、説明は割愛します。

#### 10. 9 ページ 財務状況（キャッシュフロー）について

最後に、P9 財務状況のうち、下段にありますキャッシュフローについて説明します。

当年度第1四半期期首の現金及び現金同等物は1,584 億円でした。営業活動によるキャッシュフローが+35 億円、投資活動によるキャッシュフローが▲114 億円となり、当第1四半期のフリーキャッシュフローは▲78 億円となりました。財務活動によるキャッシュフローは配当金の支払などにより▲282 億円のマイナスであったことから、当年度第1四半期末の現金及び現金同等物は換算差額を含めて期首から333 億円減少し1,251 億円となりました。

以上